

<b>1 学校教育目標</b> めざせ！友だち400人「やる気いっぱい」「笑顔いっぱい」「元気いっぱい」	<b>2 本年度の重点目標</b> ・5役会議とプロジェクトリーダーの連携による協働体制、職員の資質向上 ・新しい教育課程に対応できる教員の資質向上を校内研を中心に進める。 ・学校経営、学級経営の中に、特別支援教育の視点を位置づけ、UDの支援に立った授業・環境・組織づくりを行う。 ・心の教育に関しては、職員が児童と関わる時間を確保し、いじめ防止の取組や個別指導の充実を行い、児童の心の安定を図るような取組を進める。 ・あいさつ運動や集団登校の取組は、家庭・地域・PTAと連携を強化し、児童にその価値に気づいてもらえるような取組や働きかけを行う。
---	--

**【達成度】**  
A: ほぼ達成できた  
B: おおむね達成できた  
C: やや不十分である  
D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価								
①								
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動【やる気】【開かれた】	●志を高める教育	道徳の授業の推進を図る。 夢や目標を持たせる意識の向上をめざす。	・道徳の授業実践や学校行事、体験活動を「夢や目標に向かって努力しようとしている」の好意的評価を80%以上にする。	・内容項目「希望と勇気、努力と強い意志」「伝統や文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の授業実践をそれぞれ1回以上行う。 ・学校行事、体験活動ごとに個人の目標を立て実践、ふり返りをさせる。	やる気	A	・児童アンケート「夢や目標に向かって努力しようとしている」の好意的評価は85%であった。しかし、職員は72%という結果で、夢や目標を持たせる授業の難しさが表れている。 ・道徳の教科書を使つての授業で、「希望と勇気、努力と強い意志」「伝統や文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の授業実践は各学年2回ずつ行うことができた。	・地域人材を生かした教育活動、出前授業、ユメ先生なども含め、外部講師などを取り入れながら道徳と結びつけて授業実践を行っていく。 ・引き続き「希望と勇気、努力と強い意志」「伝統や文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の授業実践をそれぞれ1回以上行っていく。 ・学校行事、体験活動だけでなく、委員会活動や、クラブ活動なども含めて、個人の目標を立て実践、ふり返りをさせていく。
	●学力の向上	学習指導の充実 基礎内容の定着 読書活動の充実 家庭学習の充実	・学習状況調査の到達率を県平均と同等にする。 ・児童アンケート「できる」「わかる」の好意的評価を80%以上にする。 ・図書の出し出し数の学年目標を80%以上の児童が達成できる。 ・家庭学習の目標時間を80%以上の児童が達成できる。	・全国、県学習状況調査の結果を分析・活用し、学習指導に生かす。 ・国語タイムと算数タイムを計画的に行い、基礎的内容の定着を図る。 ・おすすめの本50冊を含んで低学年120冊中学年100冊高学年80冊の年間貸し出しを目標に取り組みさせる。 ・家庭学習のノートなどに取り組みした時間を記録させ目標時間を意識させる。また、家庭への啓発を行う。	やる気	B	・県学習状況調査は、4年国語・社会、5年国語、6年国語・社会・算数で県平均を下回った。 ・国語タイムや算数タイムで問題が「できる」「わかる」が87%以上が好評価であった。 ・授業が「わかりやすい」が90%以上で高評価であった。 ・家庭学習の時間が中・高学年で個人差が大きく目標達成ができていない。	・県学習状況調査の結果を踏まえ、学力向上について研修を行い手立てを講じる。 ・県学習状況調査に対応したS国語タイムS算数タイムの取り組みを確実に、継続して実施する。 ・読書タイムの継続及び良書の紹介などをしながら選書の仕方を学ばせる。 ・基礎基本の定着と学力向上を図るため、学年に応じた内容と量を吟味するとともに、家庭への啓発を図る。
	●地域人材を活用した教育活動	地域人材の積極的活用による教育活動の充実	・児童アンケートにおいて、郷土への愛着や地域の方への感謝の気持ちをもつ児童を90%以上にする。 ・職員アンケートの「地域人材を活用したカリキュラム開発」と「地域の方への感謝の気持ちをもつようなふり返り」項目において、好意的評価を90%以上にする。	・郷土への愛着や感謝の気持ちを意識した事前指導、活動、まとめ、ふり返りを行う。 ・地域人材を活用したカリキュラムを、全学年で年間40回以上計画的に実施する。 ・児童が地域の役に立つような活動を年間6回以上行う。	開かれた	B	・地域人材を活用したカリキュラムは、全学年で40回以上実施することができた。 ・児童アンケート「地域の学習でたくさんの地域の方にお世話になっているのを感じる」の好評価が89.6%であった。職員については15%ほどがさらに事前指導、まとめ、ふり返りを充実したいと考えている。	・年度当初に、郷土への愛着や感謝の気持ちを意識した事前指導、まとめ、ふり返りを行うことを全職員で共通理解する。 ・今年度同様、毎月の職員会議で地域人材を生かしたカリキュラムの実施状況を報告して情報共有を行う。また、年度初めに計画を配付し、見直しを持つ材料とする。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分 掌(部)	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動【笑顔】	●心の教育	道徳教育、人権教育の充実 ほめて育てる学級経営の推進	・児童アンケートの「相手の気持ちを考えて行動している」の好意的評価を90%以上にする。 ・児童アンケートの「友達や先生からほめられたり励ましてもらったりしている」の好意的評価を85%以上にする。	・人権集会、平和集会を行い、学級のなかよし目標を決めたり、平和学習の発表をしたり、読み聞かせをしたりして児童の人権意識を育む。 ・教育活動の中で、ほめる(認める)過程を大切に、ほめる(認める)機会を増やす。	笑顔	C	・児童アンケートの「相手の気持ちを考えて行動している」の好意的評価は89.6%であり、目標にはわずかに到達しなかった。 ・「友達や先生からほめられたり励ましてもらったりしている」の好意的評価も78.9%で、目標を達成できなかった。	・相手の気持ちに寄り添った考え方ができるように、人権集会の内容を検討する。 ・教職員のほめ方スキルを向上させる。児童の行動をその都度具体的にほめるようにしていく。
	●いじめの問題への対応	いじめを許さない体制づくり 教育相談の充実	・児童アンケートの「学校に行くのは楽しい」の評価を90%以上にする。 ・児童アンケートの「先生は話をしっかり聞いてくれる」の評価を90%以上にする。 ・「心のアンケート」を実施し、教育相談につなげる。 ・いじめの早期発見と早期対応体制の充実	・Q-Uを活用した児童の実態把握を行う。 ・「心のアンケート」を年1回、いじめに関するアンケートを年2回実施し、いじめの未然防止につなげる。 ・年に1回の教育相談週間の時間を確保し、子どもの困り感に対応する。 ・「心のポスト」を設置したり、2ヶ月に1回「先生あのねカード」を実施したりして、困り感のある児童が相談しやすい環境を整える。	笑顔	B	・児童アンケート「学校に行くのは楽しい」の好意的評価が81.9%であり、目標には達しなかった。 ・「先生は話をしっかり聞いてくれる」の好意的評価は93%であり、目標を上回った。 ・しかし、どちらの項目も「よくあてはまる」の割合は増加していた。	・今年度は教育相談週間の時間について見直しを行い、日数や時間を十分に確保できたため、継続していく。 ・「先生あのねカード」については、記入時に周囲の目が気になる児童がいることをふまえ、自由記述ではなく、選択肢に変更する。
	○一人一人のニーズに対応した個別指導の充実	特別支援教育の充実 職員の意識の向上 要支援児童への支援体制の確立	・特別支援教育に関わる研修を計画・実施し、職員の意識を高め、対応スキルを向上させる。 ・「個別の支援を必要とする児童」の情報を共有し、支援体制を充実させる。 ・教育相談会を開催し、情報を共有し、支援方法をチームで考える。 ・ケース会議や就学支援を適宜開催する。	・特別支援教育に関する研修会を年3回以上実施する。 ・教育相談会を月1回以上定期的に開催する。 ・金曜日の午後にさんSUNミーティングを実施し、教育支援員も含めて情報を共有し、支援体制を考える。 ・適正な就学支援を行うために、アセスメントを実施したり、専門機関と連携したりして、客観的に実態を捉える。	笑顔	A	・特別支援教育に係る研修会を年3回実施した。 ・教育相談会は、毎週の職員連絡会での報告に変更した。 ・さんSUNミーティングは、担当者のみならず、級外職員などと情報を共有して支援にあたる場になった。 ・アセスメントを実施(14件)、専門機関と連携(8件)巡回相談(2件)。児童の客観的な見取りに効果的だった。 ・ケース会議は20回以上になり、継続的にチーム支援の在り方を話し合った。	・特支研修は引き続き実施し、最新の情報へアップデートできるように努めたい。教育支援員への研修も考えていきたい。 ・校内でのアセスメント実施では、時間のやりくりが難しかった。実施時間の確保を考えたい。 ・ケース会議の時間を確保できるように、短時間でも効果的に行うことができる方法を探りたい。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分 掌(部)	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動【元気】【安心・安全】	●健康・体づくり	運動習慣の定着 衛生習慣の確立 食習慣の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「体力・運動能力調査」の結果の活用</li> <li>・体育的行事の推進と運動の奨励</li> <li>・児童アンケート「手洗い、うがいをきちんと行う。」という評価を90%以上にする。</li> <li>・全学級で食育の授業に取り組み、食に対する興味・関心を高め、望ましい食習慣の形成に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力・運動能力調査の結果を分析し、種目を限定してスポーツチャレンジに取り組む。</li> <li>・学習カードを活用した体育の学習を推進する。また、水泳大会やマラソン大会を計画し、実施前には水慣れ教室やマラソンタイムにも取り組む。</li> <li>・1日に1回は外に出て遊ぶように声をかける。</li> <li>・給食前や掃除の後など、放送委員会や保健委員会が全校児童に呼びかけ、手洗いとうがいを実施する。</li> <li>・学級で「もぐもぐタイム」を取り入れ、無言で食べる時間を確保することで食べ残しを減らす。</li> <li>・年1回、学校栄養職員と連携して、各学年の発達段階に応じた食に関する授業を全クラスで実施し、望ましい食習慣を身につけさせる。</li> </ul>	元気	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力・運動能力調査の結果を整理し、児童に個票を渡して指導に役立てた。スポーツチャレンジは全校的な取組にはならなかった。</li> <li>・学習カードを活用した体育の授業に取り組んだ。また、水泳大会前の水慣れ教室やマラソン大会前のマラソンタイムにも計画的に取り組むことができた。</li> <li>・児童アンケートの結果で、「毎日1回は外で元気に遊ぶ」の好意的評価が高くなってきており、児童の意識が向上していると考えられる。</li> <li>・児童アンケートの結果で、「手洗い、うがいをきちんと行う。」の好意的評価が89%と目標にはわずかだが届かなかった。</li> <li>・給食の食べ残しが減り、年1回の栄養教諭との食に関する授業にも全学年で取り組むことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツチャレンジを体育の授業の中に位置づける。 (例:ボール運動領域の準備運動としてドッチボールチャレンジに取り組む)</li> <li>・「スポーツチャレンジ週間」を設け、実施放送、経過や結果を知らせる。</li> <li>・学習カードのデータの共有化 (学年、領域ごとにフォルダーを作成し、データの共有化を図る)</li> <li>・手洗い・うがい実施を100%に高めるため、冬季休業等の取組を高める手立てを講じ、インフルエンザ等の集団感染防止の取組へつなげる。</li> </ul>
	○生徒指導・安全教育	あいさつ・無言掃除・廊下歩行の充実 生活指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケート「あいさつ・返事がよくなる」を、90%以上にする。</li> <li>・「無言掃除ができる」を90%以上にする。</li> <li>・「移動教室は並んで、無言で移動できる」を90%以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活・美化委員会を中心に、各委員会ごとや学級ごとの「あいさつ運動」を行い、児童の意識を高めていく。</li> <li>・無言掃除を徹底させるために、掃除のやり方も含めた臨場指導をしていく。</li> <li>・給食当番や特別教室への移動は、学校の決まりにそって、2列に並んで無言で指導するように指導する。</li> <li>・生活目標のふり返りを定期的に行い、意識づけを図る。</li> <li>・部会や職員会議などで出された問題行動や事案について話し合い、共通理解を図る。</li> </ul>	安心・安全	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつの取り組みでは、月目標で年に2回設定をして取り組んだ。いずみ朝会では、生活美化委員会からあいさつ名人表彰を行った。(達成率84.9%)</li> <li>・無言掃除は意識化を図っている。臨場指導はできていた。(達成率86.3%)</li> <li>・移動教室はほとんど徹底できている。実際のところ並んで移動している姿が多く見られた。(達成率85.2%)</li> <li>・集団登校は、並んで学校にたどり着くまで登校できている班は多くない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達どうしのあいさつ運動の取り組みを工夫していくことが必要。</li> <li>・生活目標のふり返りを、各月ごとにクラス単位で行うようにしたい。</li> <li>・移動教室の確認を、4月当初に行う。各教室からどのルートで、どんな並び方で移動すればいいのか、確認をする。</li> <li>・集団登校はなかなかよくなるが、全校朝会や校内放送などほめる機会を作っていくことも必要である。</li> <li>・登校班の編成については、徐々に各地区に委ねていくべきだと思う。</li> </ul>



④								
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
学校運営	●業務改善・職員の働き方改革の推進	業務の効率化と業務改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「計画的・効率的に業務を進めている。」と自己評価する職員90%以上をめざす。</li> <li>・時間外自発勤務時間(教諭の平均時間)を29年度より減少させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「嬉小の手引き」を活用した会議、年間計画を見通した効率的な働き方を呼びかける。また、大きな業務の時は、早めの提案を行い、見通しを持ってもらう。</li> <li>・毎週水曜日の定時退勤推進日を実行する。毎月第1月曜日の嬉野市定時退勤日、第3水曜日の県下一斉定時退勤日を電子行事黒板に赤で提示し、達成率を背面黒板に書く。</li> </ul>	教頭	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「計画的・効率的に業務を進めている。」と自己評価する職員は86.2%と目標には達しなかったが、1回目の74.2%と比較すると、年度後半は意識して業務を遂行できたのではないかと考える。</li> <li>・今年度後半は会議の削減、会議終了時刻の設定、資料のデータ化に取り組んだ。校務の運営には特に支障はない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の時間外勤務の平均値(教諭)は減少しつつある。今年度は、専門部会の熟議の中で学校業務の地域及び保護者への移管等も含めて話げできた。具体的に実行できることについては、次年度の取組として実現していきたい。</li> <li>・今年度取り組んだように、前半時点での各自の時間外勤務時間の平均値と国のガイドラインとの比較をすることで、後半の取組でも働き方改革の推進に対する意識を高めていく。</li> </ul>

⑤ 今年度のまとめと次年度への課題

- 本年度のまとめ
  - ・志を高める教育については、引き続き地域の方に授業支援をいただきながら、地域を身近に感じ感謝する気持ちの育成を図っていききたい。
  - ・地域の人材を生かした授業支援に対しては十分なサポートがあった。
  - ・児童のあいさつについては、学校評価の中でも様々なご意見をいただいた。おそらく、個人差があるものと考えられる。
  - ・いじめ防止問題については、ケース会議をはじめとして、職員全体の組織的な動きができた。
- 次年度への課題
  - ・次年度は、挨拶の指導を重点的に行っていききたい。
  - ・働き方改革については、昨年度よりも改善することができた。次年度は、さらに、教職員の意識改革を進めていく必要がある。
  - ・児童の体力の向上については、県教育委員会の取り組みを生かしながら、本校でも進めていききたい。
  - ・読書活動については、図書室を活用して、さらに読書に親しめるような指導と環境改善を行っていききたい。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目